

## JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2025 奈良の受賞者へ賞状を授与

JICA が実施する「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」では、2025 年度「世界の幸せのために私たちができること～未来へつなげるために～」をテーマに作品を募集しました。

この度、全国からの応募総数 29,854 作品(中学生の部:11,943 作品、高校生の部:17,911 作品)の中から、「国内機関長賞(JICA 関西所長賞)」を受賞した生徒の学校を JICA 関西が訪問し、賞状を授与します。訪問時には、世界に関心を寄せる受賞生徒と国際協力経験豊かな JICA 関西・奈良デスク(国際協力推進員※)が、国際協力や SDGs 等について懇談予定です。

※ 地域の JICA の窓口として、地域国際化協会など地方自治体が実施する国際協力事業の活動拠点に JICA が配置しています。

世界との繋がりがますます深まる現在、未来のために、奈良の中学生・高校生が何を考え、どのような行動をしようとしているのか、ぜひ取材ください！

受賞生徒、学校教諭、奈良デスクへのインタビューが可能です。

### 【日程】 3月3日(火)10:00～ (30分程度)

| 学校名        | 賞      | 学年 | 受賞作品名           | 学校所在地               |
|------------|--------|----|-----------------|---------------------|
| 日本教育学院高等学校 | 国内機関長賞 | 1  | 「二つのサイレンと一つの願い」 | 宇陀市大宇陀<br>上片岡 194-6 |

### 【日程】 3月3日(火)16:00～ (30分程度)

| 学校名             | 賞        | 学年 | 受賞作品名      | 学校所在地            |
|-----------------|----------|----|------------|------------------|
| 奈良教育大学附属<br>中学校 | 国内機関長賞   | 1  | 自分／世界で考えた時 | 奈良市法蓮町<br>2058-2 |
|                 | 特別学校賞(※) |    |            |                  |

(※)5年以上連続で学校賞(60作品以上または全校生徒の3割以上の応募があった学校)を受賞した学校が対象

取材希望の場合は下記連絡先まで事前にご連絡ください。

|                  |
|------------------|
| 【本件に関する問い合わせ先】   |
| JICA 関西 市民参加協力課  |
| TEL:078-261-0384 |

## <参考>

### 【受賞作品概要】

#### ●国内機関長賞 奈良教育大学附属中学校

##### タイトル:自分／世界で考えた時

「世界の幸せのために自分ができること」は大きなテーマだ。戦争や貧困、環境問題のニュースを見ると僕に何ができるのか難しいと思った。しかし考えてみれば僕にできることは小さな事の積み重ねだ。まず、大切にしたいのは「やさしさ」だ。子どもと遊んだり困っている子を助けたりするとその子は笑顔になり、こちらも幸せな気持ちになる。身近な優しさの積み重ねが幸せを広げる第一歩だ。次に、僕が習っているラグビーから学んだことだ。ラグビーは一人では勝てないスポーツであり、協力することの大切さを学んだ。世界も同じで、対立ではなく協力し合えば平和で幸せな世界に近づける。そして英語を勉強し色々な国の人と友達になれたら、お互い尊重できる関係を作れる。それが世界をもっと幸せにする事に繋がる。小さな努力の積み重ねを一人ひとりが続けていけば、それは大きな力になり、世界を幸せにできると信じている。自分にできる小さなことを積み重ね、世界を幸せにできるよう努力して生きていきたい。

#### ●国内機関長賞 日本教育学院高等学校 1年

##### タイトル:「二つのサイレンと一つの願い」

「家の外から正午を知らせるサイレン」「テレビの中で、爆弾投下を知らせるサイレン」、二つのサイレンは対照的であり、私に「平和」を思い出させる要因の一つだ。自分の周りには戦争の情報があるのに、無意識のうちに目を向けず、分かった気でいたことに気づいた時、私の心に羞恥心が広がった。それから羞恥心に向き合おうと様々な事を考えた。その中で最も胸を打たれたのは NHK の連続テレビ小説『虎に翼』だ。敗戦により起こった悲劇は胸が痛くなるほどリアルだったからだ。私は戦争に強い関心を向けるようになった。これから何年、私は正午のサイレンだけを聴いていられるだろうか。私だけでも変えられることはある。だからこそ、私は知る事を続けていく。世界で起きている戦争に目を向け、小さな学びや対話が平和の鐘を鳴らす最初の音になると信じて、その音をずっと聴き続けたい。

### 【関西の応募(審査作品)総数】

| 都道府県 | 中学    | 高校    | 全体    |
|------|-------|-------|-------|
| 滋賀県  | 1,042 | 329   | 1,371 |
| 京都府  | 579   | 742   | 1,321 |
| 大阪府  | 597   | 1,093 | 1,690 |
| 兵庫県  | 237   | 675   | 912   |
| 奈良県  | 151   | 80    | 231   |
| 和歌山県 | 159   | 19    | 178   |
| 計    | 2,765 | 2,938 | 5,703 |

#### 賞の種類(中学生・高校生共通)

|       |                          |           |
|-------|--------------------------|-----------|
| 個人賞   | 最優秀賞                     | 3名        |
|       | (JICA理事長賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞) |           |
|       | 優秀賞                      | 3名        |
|       | 審査員特別賞                   | 4名        |
|       | 国際協力特別賞                  | 10名       |
|       | 国内機関長賞                   | 各都道府県1名以下 |
|       | 佳作                       | 70名程度     |
|       | 【副賞】最優秀賞・優秀賞:海外研修        |           |
|       | その他個人賞:フェアトレード商品         |           |
| 学校賞   | 60作品以上または全校生徒の3割以上応募     |           |
|       | (副賞:表彰メダル)               |           |
| 特別学校賞 | 5年以上連続学校賞受賞(副賞:表彰箱)      |           |

### 【エッセイコンテストの概要】

次世代を担う中学生・高校生を対象に、エッセイを書くという行為を通じて、国際協力について考えてもらうきっかけを提供し、開発課題や国際協力への興味・関心を高めてもらうことを目的に実施。1962 年度に「海外移住懸賞作文」として開始され、2025 年度は高校生の部が 64 回目、中学生の部は 30 回目を迎える事業。

中学生の部の審査員長は尾木直樹氏(教育評論家・法政大学名誉教授)、高校生の部の審査員長は星野知子氏(俳優・エッセイスト)に担っていただいた。

今年度をもって本事業は終了する。今後 JICA は、探求学習に活用できる教材の提供や JICA 海外協力隊等のオンライン出前講座の拡充などを通じて、新たな形で中高生の学びを支援していく。

[国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト HP](#) (右 QR コード参照)

